

大学図書館改革の方向性

国際基督教大学図書館
畠山珠美
hatake@icu.ac.jp

日本図書館研究会シンポジウム
2011年2月20日



国際基督教大学(ICU)の紹介

1953年4月 開学

学生数 約 3,000名

専任教員数 156名

専任職員数 116名

2008年4月 教学改革スタート

旧制度 1学部 6学科

新制度 1学部 1学科(アーツ・サイエンス学科)



ICU図書館の概要

蔵書数 約 70万冊 (洋:和=48%:52%)

受入冊数 約 13,000冊／年

雑誌 約 22,800タイトル

冊子体 約1,800

電子ジャーナル 約21,000

開館時間 8:30～22:30(学期中の平日)

スタッフ

専任職員 13名、派遣職員 3名、
パートタイマー 16名(週3日)、
学生アルバイト 約 10名／日、

シルバーセンタースタッフ 7名(週2～3日)



ICU図書館の特徴

中央図書館制

専門職図書館長

国内初の全面開架

貸出冊数無制限

(貸出期間 学部生:2週間 大学院生:1ヶ月)

論文用長期貸出

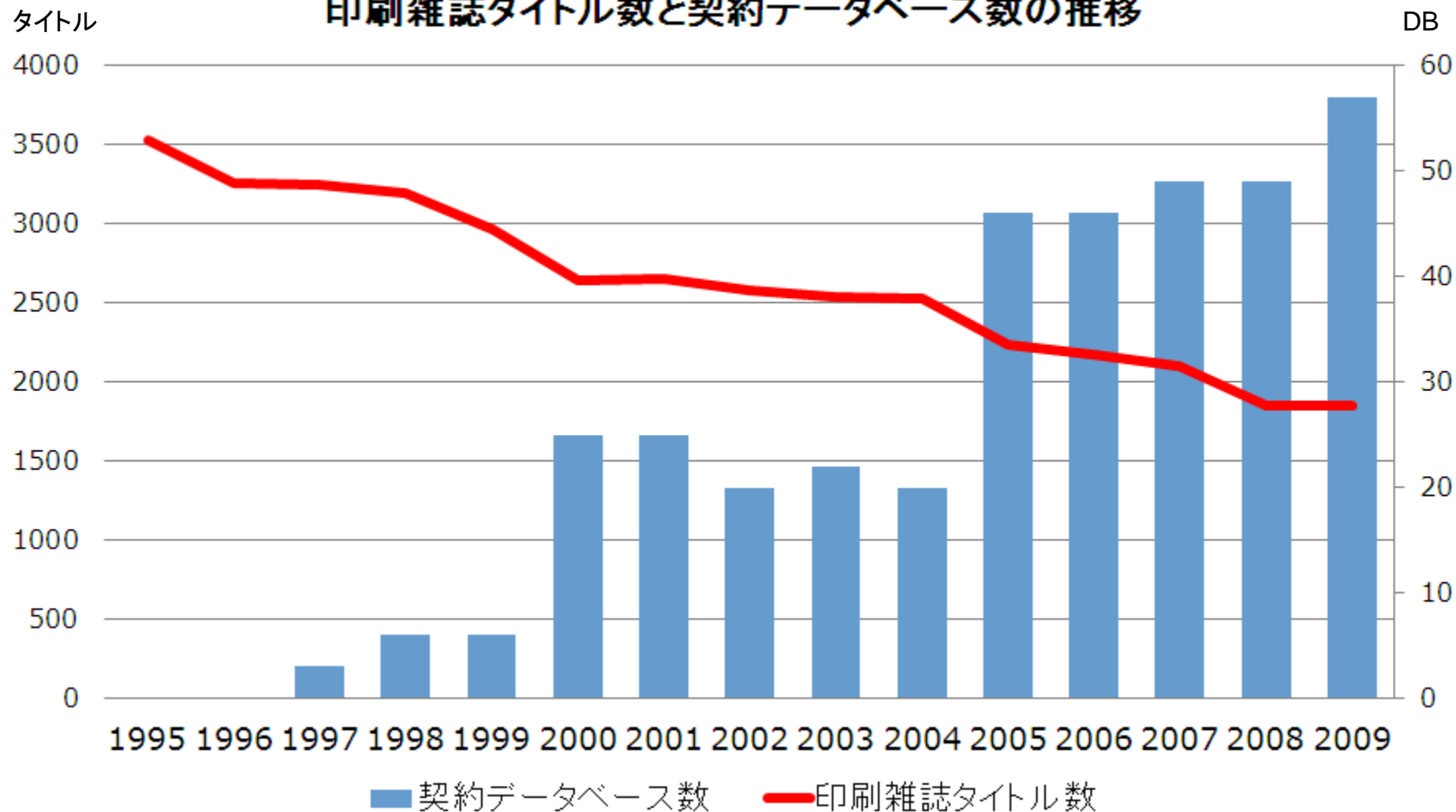
論文執筆対象者:10冊まで3ヶ月間貸出

新館オープン(2000年)

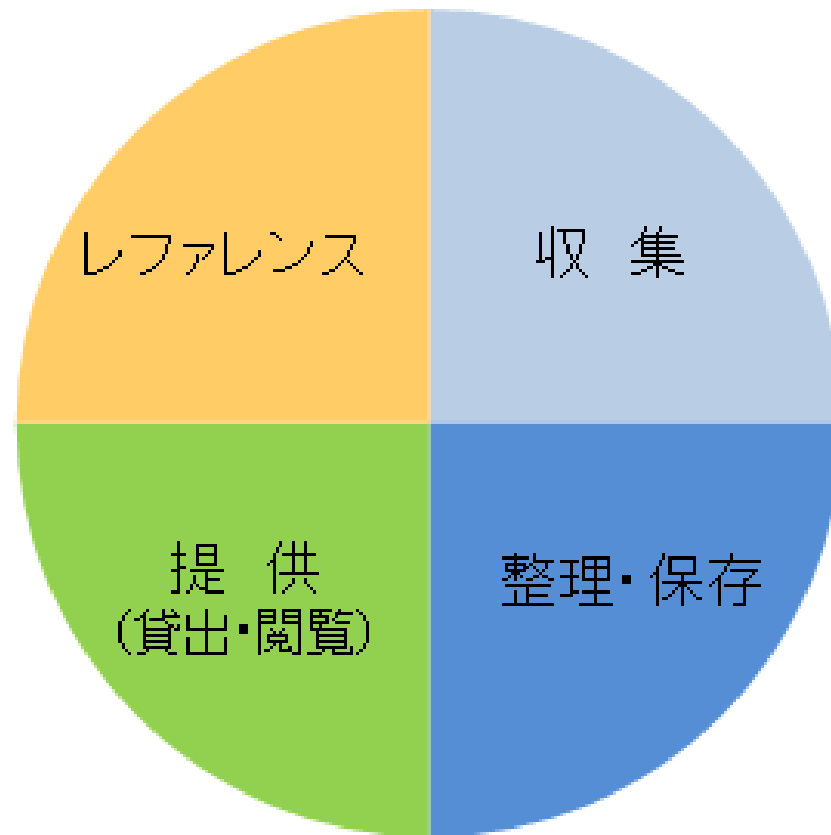


デジタル化による変化 ～ICUの例～

印刷雑誌タイトル数と契約データベース数の推移

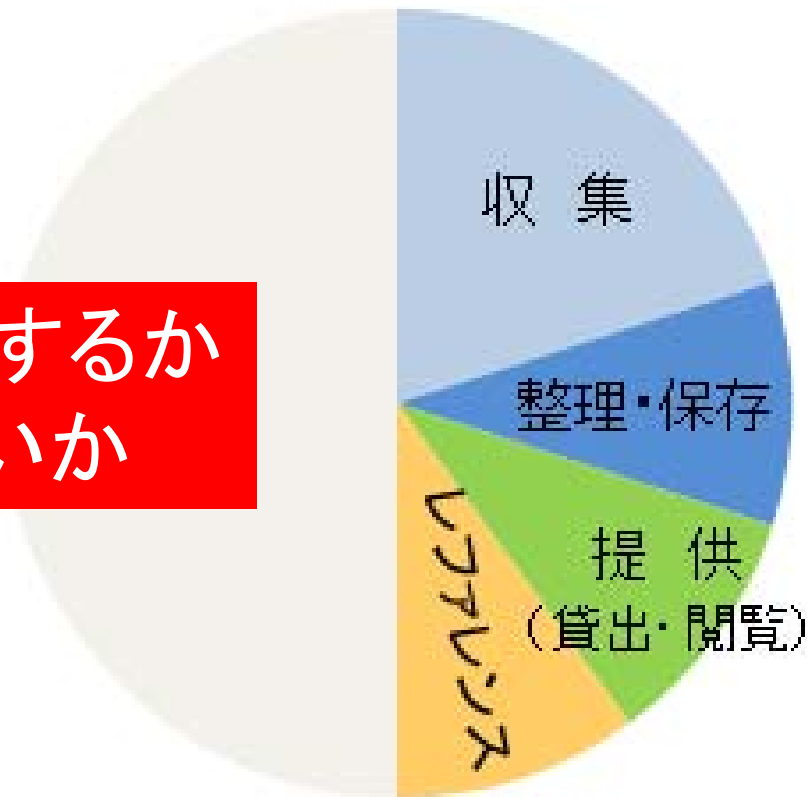


大学図書館の業務(従来型)



大学図書館の業務(今後)

余力で何をするか
何もしないか



情報の多様化

全ての資料を網羅する
仕組みがない！

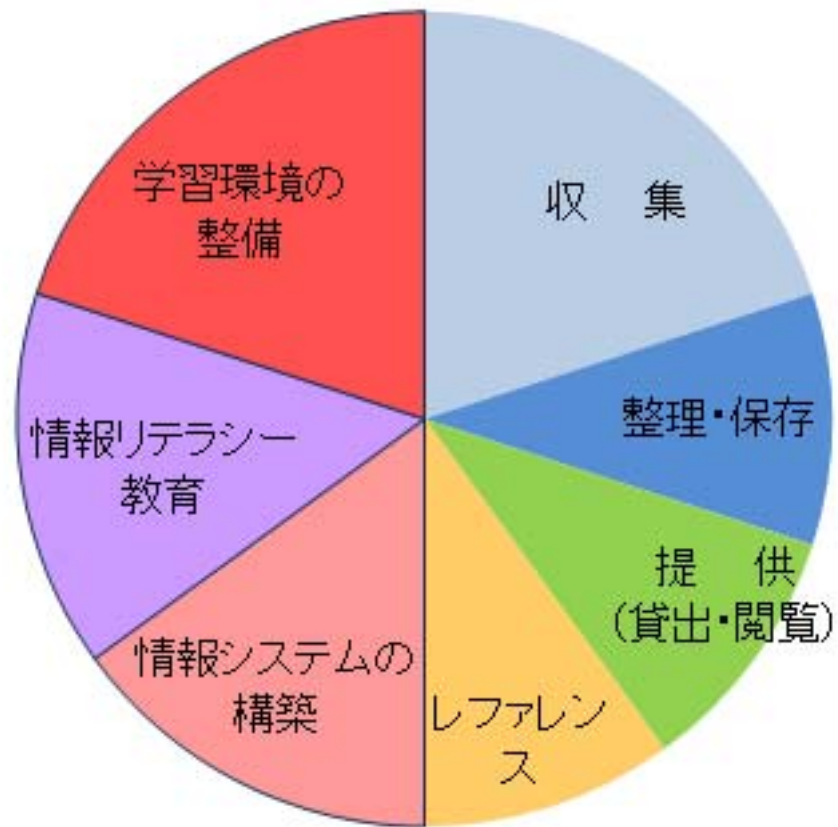
		提供方法	検索システム
	印刷媒体	書架(分類)	OPAC
電子媒体	電子ジャーナル 電子書籍	タイトルリスト	OPAC or 独自の検索システム
	オンライン・ データベース	リンク集	個々の検索システム

学習の変化

	以前	現在
学習の道具	ノート、鉛筆	コンピュータ
情報源	印刷物	印刷物、CD-ROM、DVD、 オンライン・データベース
学習形態	個人学習	個人学習、グループワーク、 プレゼンテーション
サポート	レファレンス	レファレンス、ITサポート、 ライティング・サポート



何をすべきか＝変化への対応



情報の多様化への対応

新しい情報検索システムの構築

OPACの上位システムが必要

検索窓口の一元化

データベース間の横断検索

情報リテラシー教育の充実

情報の全体像を理解させる

印刷物と電子資料の使い分け

効率的な情報検索の指導

情報評価能力の育成

ArticleFinder

Japanese

雑誌タイトル カテゴリ検索 **詳細検索**

論文フルテキストを探す

雑誌名 で始まる を含む と一致

ISSN

日付 **** ▼ *** ▼ **** ▼ 巻 号 開始ページ 終了ページ

PMID DOI

Search

本を探す

書籍名 で始まる を含む と一致

ISBN

Search

[クリア](#)

■お探し中の資料

出典: International affairs [0020-5850]

フルテキストを入手する

フルテキスト

[ICU OPAC](#) を見る

Available from 1922 until 2008

[Wiley Online Library 2010 Full Collection](#) を見る

年: 巻: 号: 開始頁:

Available from 1998 volume: 74 issue:1

提携大学図書館をチェック

[東京経済大学](#)

[国立音楽大学](#)

検索は自動では行われません

[津田塾大学](#) |

[武蔵野美術大学](#)

[東京外国語大学](#)

[ルーテル学院大学](#)

その他の図書館をチェック

[WebcatPlus \(全国大学図書館横断検索\)](#)

コピー取寄せサービス(文献複写)

[文献複写を申し込む](#)

資料情報

[RefWorks](#) に探した資料の書誌事項を保存する



検索結果画面

データベース間の横断検索

10 of 218 このレコードをチェックする | [チェックリストを更新](#) | [保存](#) [印刷](#) [メール送信](#) [エクスポート](#) | [RefWorks](#)

< [前へ](#) | [次へ](#) >

Discovery Links

データベース Sociological Abstracts

標題 The Banality of Boundaries: Performance of the Nation in a Japanese Television Comedy

著者 [Perkins, Chris](#)

著者の所属先 Royal Holloway, University of London, Egham, Surrey, UK

情報源 Television & New Media, vol. 11, no. 5, pp. 386-403, Sep 2010

ISSN 1527-4764

ディスクリプター *Television *Japan *Nationalism *Programming (Broadcast) *National Identity *Cultural Pluralism *Semiotics *Foreigners

チェックしたキーワードで新たに検索する: ANDを使って絞り込む ORを使って緩める

Add to Current Search: ANDを使って絞り込む ORを使って緩める

抄録 Through the framework provided by what Billig terms 'banal nationalism,' this article analyzes the performance of national identity in Japanese media. The specific target for analysis is an episode of *nodame cantabile*, first broadcast on the Fuji Television Network.

データベース間の横断検索

International Christian University
LIBRARY 国際基督教大学図書館

Powered by SFX

ArticleFinder

■ お探し中の資料


論文タイトル: The Banality of Boundaries: Performance of the Nation in a Japanese Television Comedy
出典: Television & new media [1527-4764] Perkins 年:2010 巻:11 号:5 頁:386-403

フルテキストを入手する

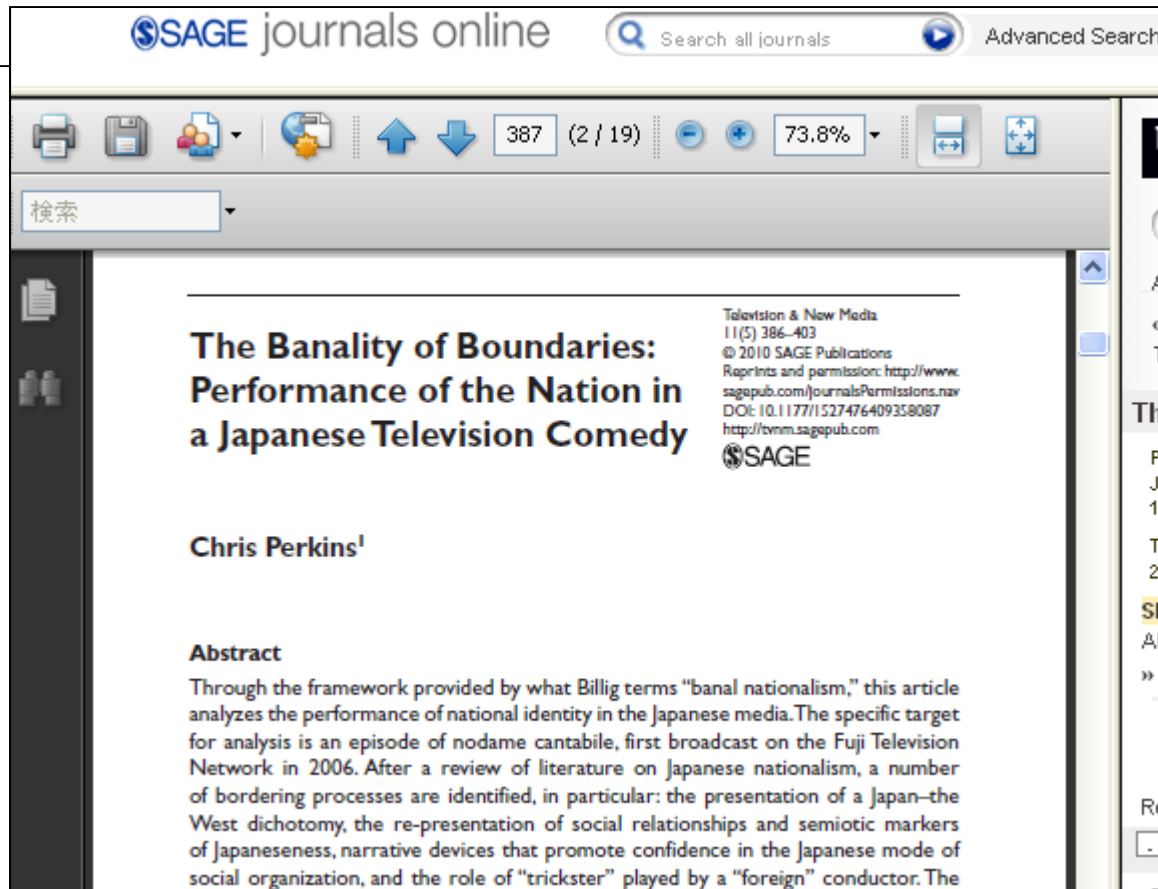
フルテキスト

[Sage Premier 2010](#) を見る

年: 巻: 号: 開始頁:



データベース間の横断検索



SAGE journals online Search all journals Advanced Search

387 (2 / 19) 73.8%

検索

The Banality of Boundaries: Performance of the Nation in a Japanese Television Comedy

Television & New Media
11(5) 386-403
© 2010 SAGE Publications
Reprints and permission: <http://www.sagepub.com/journalsPermissions.nav>
DOI: 10.1177/1527476409358087
<http://tvm.sagepub.com>

SAGE

Chris Perkins¹

Abstract
Through the framework provided by what Billig terms "banal nationalism," this article analyzes the performance of national identity in the Japanese media. The specific target for analysis is an episode of *nodame cantabile*, first broadcast on the Fuji Television Network in 2006. After a review of literature on Japanese nationalism, a number of bordering processes are identified, in particular: the presentation of a Japan-the West dichotomy, the re-presentation of social relationships and semiotic markers of Japanese-ness, narrative devices that promote confidence in the Japanese mode of social organization, and the role of "trickster" played by a "foreign" conductor. The



ICUの情報リテラシー教育(1)

英語教育プログラム(必修科目)と連携

1年次のほとんどと2年次の一部を使って、大学生に必要な「読む」「書く」「聞く」「話す」の基礎能力を身につける

カリキュラム

Academic Reading and Writing Course (1年次)

Reading and Content Analysis Course (1年次)

Communicative Strategies (1年次)

Sophomore English (2年次)

Theme Writing (2年次)



ICUの情報リテラシー教育(2)

ELPの授業の3コマを使用 指導内容

1年次春学期(4月中旬～5月上旬)

学術論文とは

図書館資料の基礎知識(資料の種類・媒体、
配架方法等)

1年次秋学期(9月中旬～10月上旬)

学術誌とは

雑誌論文の探し方(オンラインデータベースの使い方)

2年次(各学期で開講)

主題に合った文献の探し方

学習の変化への対応

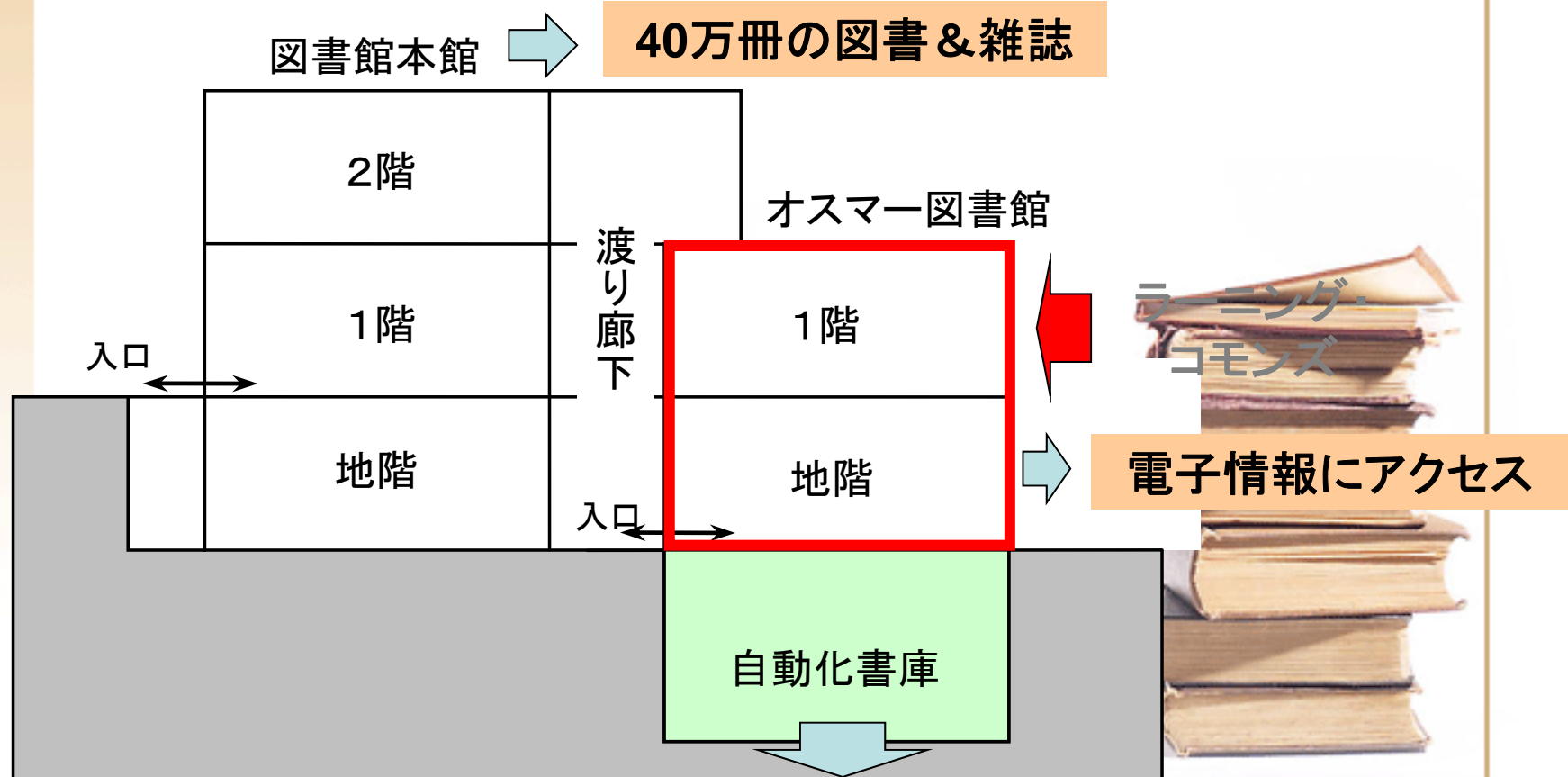
	条件	必要な施設・設備
学習の道具	コンピュータ	コンピュータ、無線LAN
情報源	印刷物、CD-ROM、DVD、 オンライン・データベース	全ての情報にアクセスできる環境
学習形態	個人学習、グループワーク、 プレゼンテーション	個人席、グループ学習室、 講演・講義用ルーム
サポート	レファレンス、ITサポート、 ライティング・サポート	学習支援の総合窓口



ラーニング・コモンズ

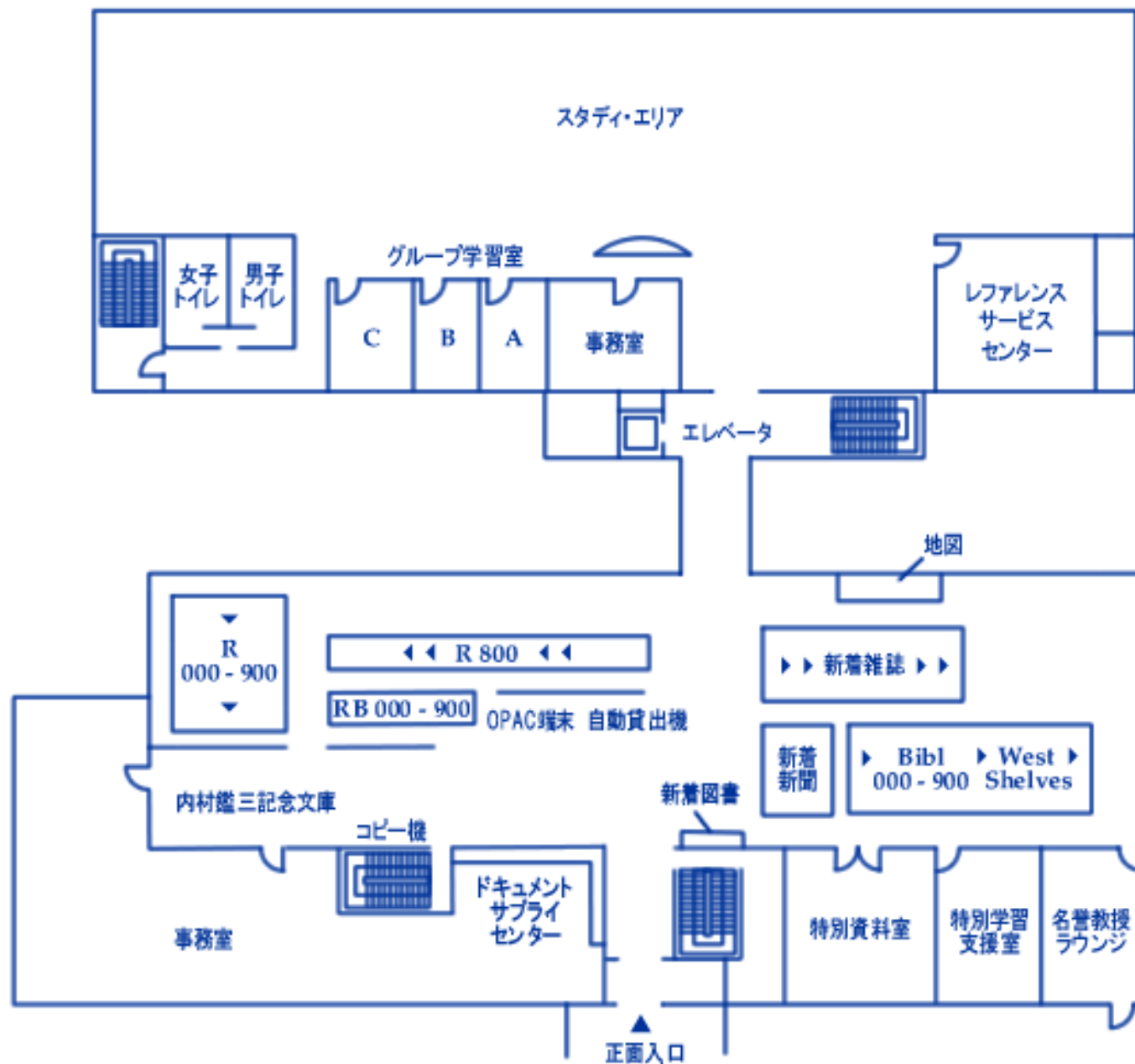
ICUのラーニング・コモンズ ～場所～

新館の総面積 3,874m² (各フロア1,100m²)

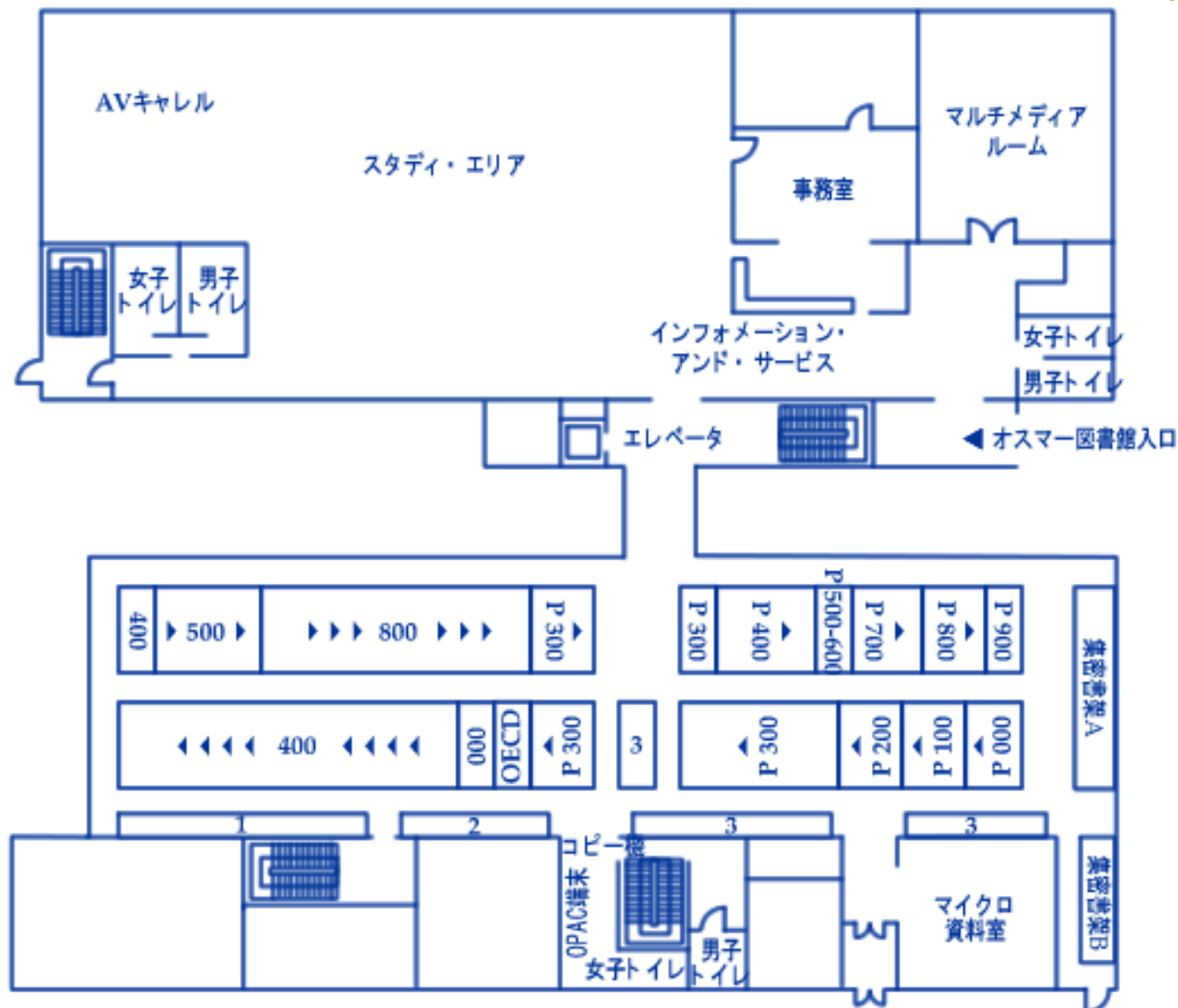


現在: 30万冊の図書・雑誌・視聴覚資料

1階 平面図



地階 平面図



ICUのラーニング・コモンズ ～設備～

スタディ・エリア

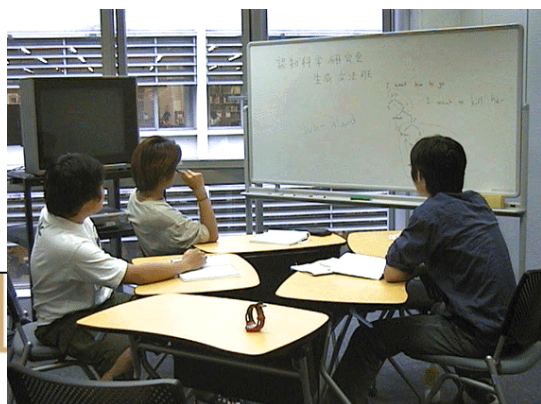
個人席：138席（PC設置）

快適さを追求

スペース、家具、レイアウト

マルチメディアルーム 1室

グループ学習室 3室



ICUのラーニング・コモンズ ～サポート～

レファレンスサービス・センター

職員 4名 常駐

PC操作指導～事項調査

ライティングサポート・デスク

2010年12月 スタート

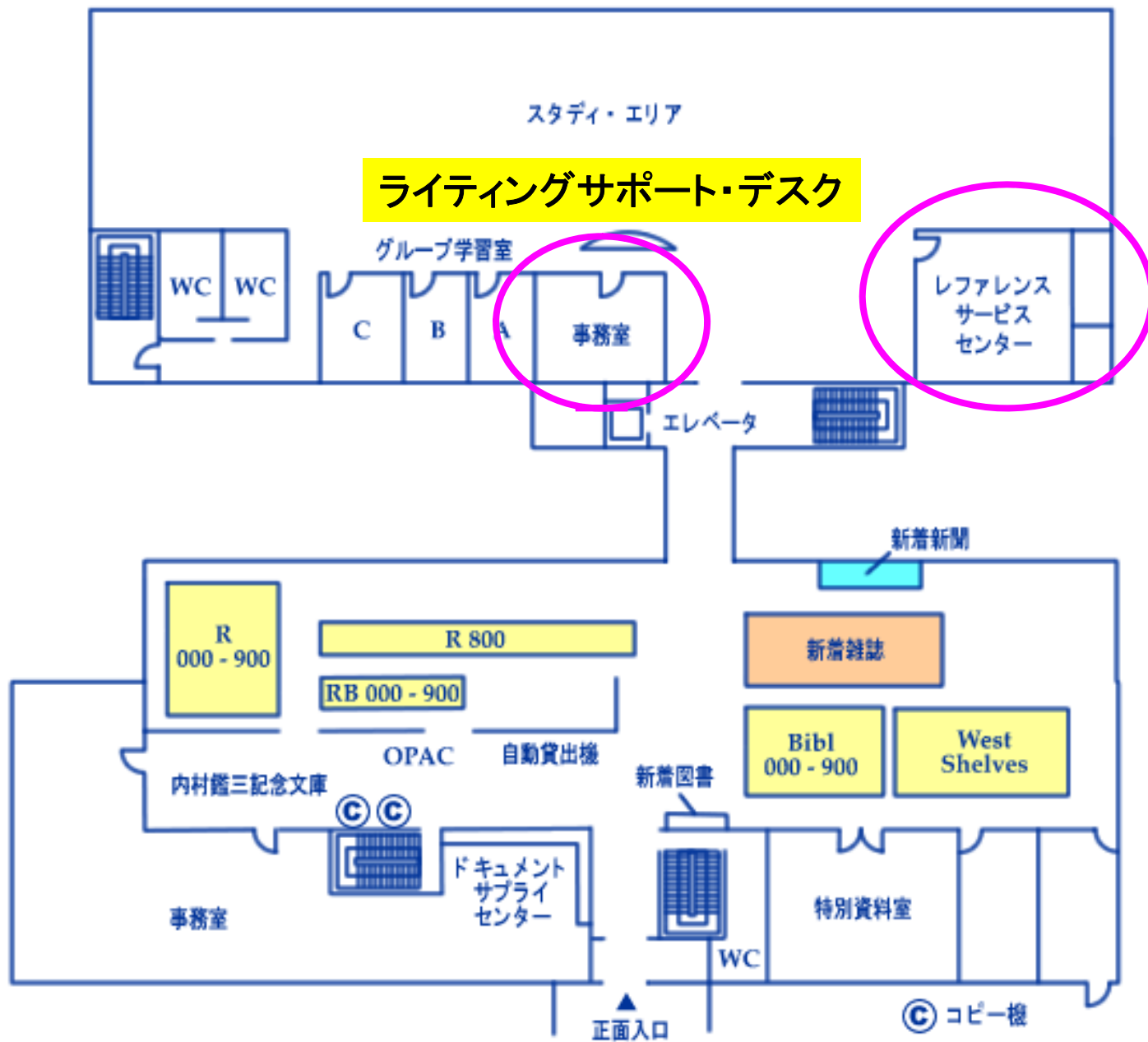
教養学部長室と図書館の共同

大学院生のチューターによる

1チュートリアル:40分、予約

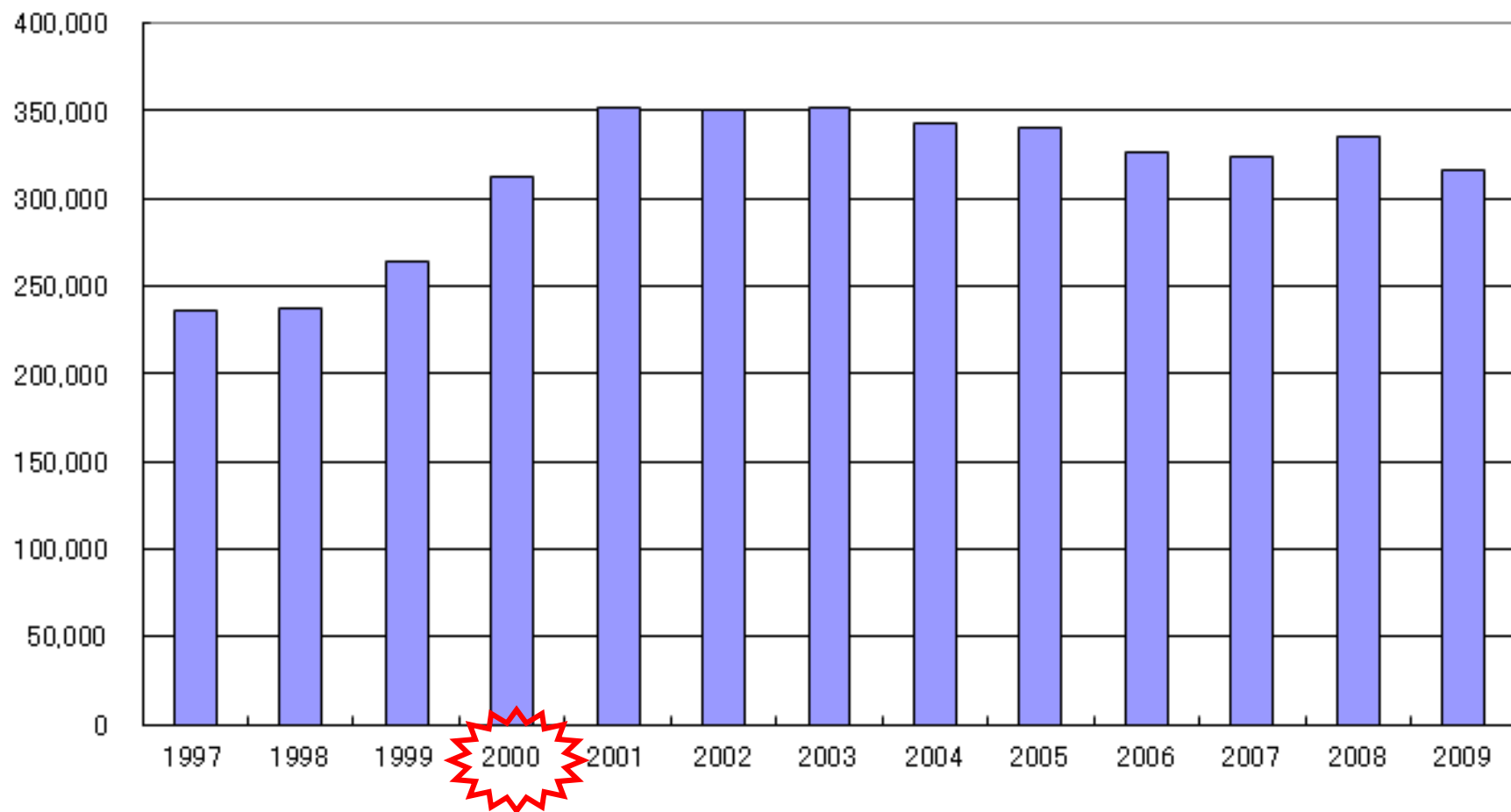
将来はライティング・センターへ





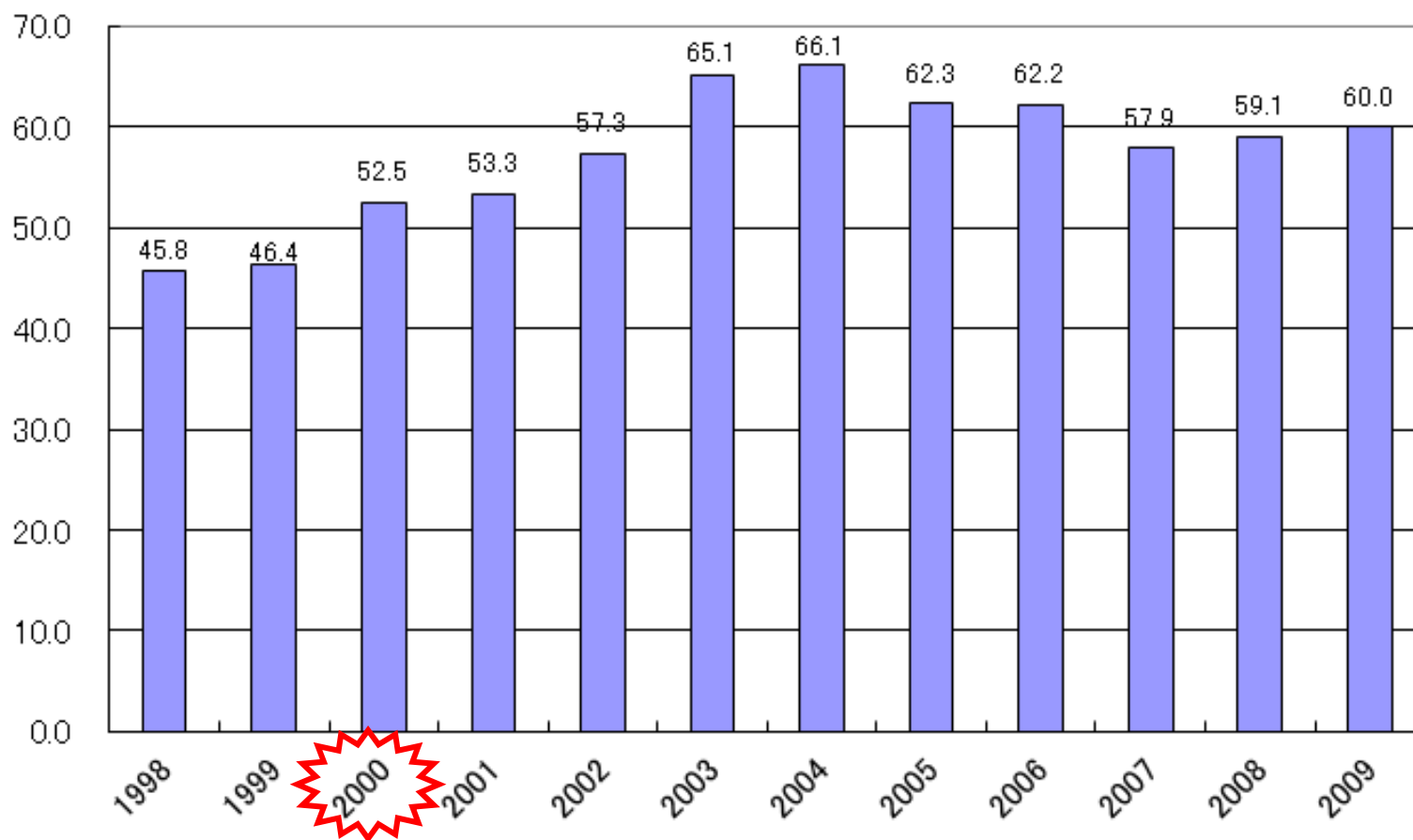
改革の成果(1)

年間入館者数の推移



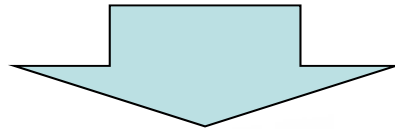
改革の成果(2)

学生一人あたりの年間貸出冊数

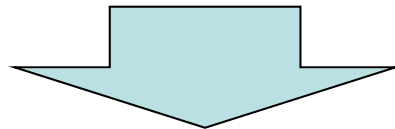


改革の方向性

情報の変化・学生の変化



- ∅ 個々の大学に合った改革を考える
- ∅ 大学改革の中で図書館は何ができるか



- ∅ 図書館(図書館業務)の枠組みを取り払う
 - ∅ 教員・学生・他部署との連携

